

普及活動情勢報告（令和3年3月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

土佐山に環境測定の風が ～ハウスミョウガ研修会～



全生産者が出席しました

2月19日、JA高知市土佐山支所において土佐山ハウス茗荷研究会総会が開催され、生産者9名が参加しました。

普及所からは、来年度から始まる比較的安価な環境測定装置「エントリーセンサー」を用いた実証試験や、種根茎から検出された低温性ピシウムについて情報提供をしました。生産者からは「ハウス内温湿度をスマートフォンで見れるのは良い」、「根茎腐敗病と低温性ピシウムの症状の違いはどうか」など積極的な意見交換がありました。

普及所は今後も生産者やJAなどと連携し、ハウスミョウガの生産安定に向け支援をしていきます。

6次産業化への支援 ～ホケキョ漬の県版 HACCP 取得～



ホケキョ漬の認証取得

JA高知市女性部鏡支部加工部は、2月15日にホケキョ漬の県版 HACCP を取得しました。これまで普及所からは、HACCP チーム会の立ち上げを提案しチーム会を12回開催。危害要因分析等の検討支援を行ってきました。チーム員からは、「最初は、専門的な用語も多く難しいと思ったが、こんなに早く認証を受けることができると思っていなかった。」と喜びの声があがっていました。また、新たに冷凍イタドリでも取得を目指します。

今後も、関係機関とともに、県版 HACCP 認証取得や既存商品の改良による商品力向上について支援を行います。

IoP クラウド「サワチ」利用が始まりました ～IoP プロジェクトの推進～



機器を全てインターネットに繋げていきます

IoPクラウド「サワチ」の利用を開始するため、3月18日にJA高知県春野営農経済センターでIoP教室が開催されました。普及所はJA営農指導員、部会役員とともに農家に協力依頼し、春野地区では今年度、20名が実証農家として「サワチ」の利用を開始します。参加者からは微気象や出荷データを活用したいとの声が多く、「サワチ」の利用に向けた期待が高まっています。

今後は現地実証を重ね、将来的に全ての生産者が利用できるサービスになるよう、JA営農指導員と連携し、取り組みを広げていきます。

身近な事例から学ぼう！ ～「農福連携サミット in 高知市」を開催～



農業と福祉、ペアになって事例を発表

3月4日、シリーズにおいて高知市農福連携研究会と高知県農業会議の共催で「農福連携サミット in 高知市」を開催し、95名が参加された。会の目的は、高知市内の身近な事例を知ること、農福連携の第一歩を踏み出して貰おうというもの。普及所は研究会の事務局として、全体の運営総括を担った。

参加農家からは、「どうやったらモチベーションが上がるか？」や、「事故が起きた時の対応方法は？」など、具体的な農福連携のやり方についての質問が出された。

高知市の農福連携事例はR3年2月末現在で29事例あり、うち9事例を高知市農福連携研究会がマッチングしている。今後更に支援体制を強化して、農福連携を進めていく。

人・農地プランの実質化に向けて ～高知市内各地で座談会行われる～



地図を囲み話し合われる

令和3年2月から3月にかけて、高知市において、人・農地プランの実質化に向けて13カ所(参加者延べ114名)で座談会が行われました。市を中心に、普及所をはじめ関係機関が連携を取り、状況の聞き取り等を行いました。

座談会では、地域の地図を見ながら行われ、今後担い手がない農地を守るため、新たな担い手をどう確保するのか話し合われました。また、農業用水の塩水化問題や、獣害(イノシシ)など、地域の課題についても話し合われました。

普及所は、引き続き座談会開催を支援し、全地域での実質化を目指します。

農薬散布をもっと楽に！ ～改良型常温煙霧機による病害防除～



薬液をタンクにセットした後は無人で防除

R2年10月から春野キュウリ生産者ほ場で改良型常温煙霧機を設置し、省力化を目指した病害防除の検討を行っています。普及所は開発メーカーとともに、改良型常温煙霧機を使用した場合の薬剤拡散程度や防除効果の検討を行いました。その結果、ハウス内で十分拡散しており、べと病やうどんこ病等、キュウリにおける主要病害への防除効果とともに高い省力性が確認できました。

今後も現地実証を重ね、課題や効果的な使用方法の検討等、実用化に向けた取り組みを進めていきます。